

## V 日高振興局

### 1. 「まりひめポスターコンテスト」受賞者へ表彰状が授与されました

3月2日、県いちご生産組合連合会（会長：壺井久仁樹氏）が実施した「まりひめポスターコンテスト」の最優秀賞 日高川町立笠松小学校 林夏希さん（小学6年生）への表彰状の授与が行われた。

このコンテストは県内の小学生を対象に、「まりひめ」のPR用のポスター図案を募集するもので、最優秀賞1点と入選6点（低学年の部3点、高学年の部3点）を選出、最優秀賞の絵をポスターに採用する。

2年目となる今年度は県内12校から合計237点の応募があり、うち日高地域管内からは8校、1～3年生（低学年）の部82点、4～6年生（高学年）の部18点の合計100点の応募であった。審査の結果、日高管内からは、最優秀賞1点と入選5点が選ばれた。

当日は、笠松小学校の校長室で贈呈式が行われ、壺井会長からは、「応募された作品はどれも素晴らしく、審査するのに大変苦労しました。その中で、皆さん3名の作品が選ばれました。」とあいさつを行った後、最優秀賞の林さんと同校での入選者である田村結菜さん（小学5年生）、林メイさん（小学6年生）に表彰状と副賞のイチゴが贈呈されました。受賞者からは、「いちごが貰えて、大変うれしい。」と笑顔での感想が寄せられた。

笠松小学校校長 楠本勝洋氏からは、「昨年も賞を頂いて、副賞のいちごをもらいました。生徒たちは、『今年もいちごを頂いて、みんなで食べよう！』と頑張って絵を描いていました。受賞者が3名と聞いて大変うれしいです。」と感想を述べていた。

連合会では、最優秀賞をとった林さんの作品をもとに「まりひめ」のPRポスターを作成し、連合会の各会員が自身の取引先や販売先等に配布して「まりひめ」の消費拡大に繋げて行くこととしており、当課としても連合会と連携し、「まりひめ」の産地強化に向けた支援を継続する。



最優秀賞 林 夏希さんへの表彰状授与



受賞者全員で記念写真

左から田村結菜さん 壺井会長 林夏希さん 林メイさん

## 2. ウスイエンドウ短節間新品種「光丸うすい」現地検討会を開催

ウスイエンドウは日高地方の主要品目であり、露地やハウスでの栽培が盛んに行われ、県下の中心産地となっている。

一方、生産者の高齢化が進む中で、主力品種である「きしゅううすい」は、施設栽培では草丈が高くなり、収穫作業等に労力がかかることが課題となっている。

このことから、農業水産振興課では、「きしゅううすい」の突然変異株として当地域で発見された節間が短く、草丈の低い短節間系統の有望品種「光丸うすい(令和4年3月15日品種登録)」の導入による省力化を目指し、本品種の現地適応性の検討や種子安定供給への協議等、地域への普及推進に取り組んでいる。

3月17日、日高野菜花き技術者協議会(会長：濱田光弘氏、会員：27名、構成機関：JA紀州、暖地園芸センター、農業水産振興課等、以下協議会)の会員7名で現地検討会を開催した。検討会では、みなべ町内の「光丸うすい」試験栽培ハウス5園地を巡回し、作型やほ場の違いによる生育状況を確認するとともに、本品種の現地導入に適した作型や栽培方法、今後の普及推進についての意見交換を行い、会員間の情報共有を図った。

なお、日高管内では、令和3年作ではみなべ町を中心に11名の生産者が試験栽培に取り組んでおり、栽培面積は40aとなっている。

会員からは、「巡回した園地の生産者は、「光丸うすい」を上手につくりこなしている。これならば、地域への普及が期待できる。」との感想が聞かれた。

今後は、協議会と連携し、展示ほの設置や試験栽培農家での栽培状況調査等により、「光丸うすい」栽培技術の確立と栽培マニュアルの作成に取り組む。



試験栽培ハウスでの現地検討会



「光丸うすい」の生育状況を確認する協議会員

### 3. プロジェクト発表を動画撮影へ（4Hクラブ）

新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が一堂に会するイベントの開催が難しく、プロジェクト発表の場である青年農業者会議（例年1月下旬～2月上旬に開催）も延期となった。今後も当分はこのような状況が続くことが想定されるため、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：有本雄紀氏）では、オンライン開催に変更となった場合でも対応できるよう、プロジェクト発表動画の撮影に取り組んだ。

日高地方の各クラブにおける発表タイトル及び発表者は下記のとおり。

① 御坊市4Hクラブ（3月25日）

「御坊市4Hクラブ「プロジェクト農園」」（発表者：鈴木溪氏）

② 印南町4Hクラブ（3月24日）

「印南の農業をひろめ隊～SNS発信による挑戦～」（発表者：尾曾匠氏）

③ みなべ梅郷クラブ（2月17日）

「守れ！ニホンミツバチ 保全大作戦！」（発表者：中井貴章氏）

発表者らは慣れないZoomの取り扱いに戸惑いながらも、普及指導員の支援のもと録画に取り組み、規定の時間内に収まるよう発表動画を作成することができた。

コロナ禍であっても活動を縮小するばかりでなく、オンライン化にうまく適応しながら前向きな活動展開につなげられるよう、今後も支援を行う。



発表動画撮影に取り組むクラブ員と支援する普及指導員

（左：御坊市4Hクラブ、中央：印南町4Hクラブ、右：みなべ梅郷クラブ）